

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第33週	第32週	第33週		第32週		第33週		第32週		第33週		第32週		第33週		第32週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	15	20	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	77	1	0	4	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	0
感染性胃腸炎	33	103	3	0	21	1	3	0	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0
水痘	15	9	5	2	0	1	4	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
手足口病	15	12	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
伝染性紅斑	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	17	27	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	177	259	6	2	18	4	3	0	5	0	0	1	0	2	3	1	13	2
流行性耳下腺炎	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	100	66	8	0	3	2	8	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	20	25	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※第32週の福島県感染症動向の報告数に変更があります。
 ※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
流行中	<p>〈RSウイルス感染症〉 RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>
小流行中	<p>〈ヘルパンギーナ〉 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に流行します。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。</p>
	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p> <p>※糞口感染 接触感染の一種。便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染します。排泄後の手洗い、オムツの適切な処理が必要です。</p>



関東地方で風しんが増加しています

○風しんの発生状況

関東地方で風しんの届出数が大幅に増加しています。第30週から第31週までに38例の風しんの届出があり、多くは30代から50代の男性が占めています。第32週では全国で39例の届出がありました。この時期は、多くの人の往来が見込まれることから、感染が拡大する可能性があります。

○風しんとは

風しんウイルスによって引き起こされる感染症で、主な感染経路は飛沫感染です。感染すると通常14~21日後に発熱、発疹、リンパ節腫脹が出現します。症状が出現しない場合(不顕性感染)も15~30%程度存在すると言われています。



○特に妊娠中・妊娠の可能性のある方は注意が必要

妊娠20週頃までの妊婦が風しんに感染すると、児に白内障、先天性心疾患、難聴等(先天性風しん症候群)が生じることがありますので、風しんにかかっている可能性のある人との接触は可能な限り避けてください。

○予防接種は受けていますか？

- 予防接種は生まれた日や性別によって定期予防接種の対象になった時期が違います。下記表は年代別・男女別で予防接種が定期になった時期を表しています。母子手帳等で予防接種を受けた記録を確認しましょう。
- 現在、風しんは定期の予防接種となっています。時期をずらして2回予防接種を受ける必要があります。特に小学校入学前1年間で受けることを忘れてしまう場合がありますので注意してください。
 第1期：1歳以上2歳未満
 第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間
- 定期予防接種以外にも自己負担で予防接種を受けることは可能です。希望される場合は主治医に相談しましょう。



生年月日	ワクチン接種状況
昭和37年4月1日以前生まれの男女	定期接種が行われていませんでしたが、大半の人が自然に風しんに感染することで免疫があります。
昭和37年4月2日~昭和54年4月1日以前生まれの男性	中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風しんに感染する機会が減少しましたが、男性は定期接種制度が行われていないので風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和54年4月2日~昭和62年10月1日生まれの男女	男女とも中学生の時に予防接種を受ける対象になってはいたが、中学生のときに個別に医療機関で予防接種を受ける制度であったため、接種率が低く、風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和62年10月2日~平成2年4月1日生まれの男女	男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高いですが、自然に風しんに感染する機会がさらに減少したため、接種を受けていない人には風しんの免疫がない人が比較的多い世代です。

この情報に関するお問い合わせ先: 県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL: 0248-75-7818

E-mail: kenchu_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp